

令和5年 恵那市の主要ニュース

1. ポーランド共和国との交流が深まる

3月9日、駐日ポーランド共和国特命全権大使が恵那北中学校卒業証書授与式に参列。4月6日、シロンスク県知事が笠置峡や岩村城などを視察。5月10日には恵那文化センターでフォークダンスチームイステブナの公演が行われた。さらに5月26日にはポーランドオリンピック委員会記念式典に参加した。

8月30日には、クラクフ市の日本美術技術博物館マンガと中山道広重美術館が、友好協力に関する協定書の締結に向けた覚書を取り交わした。



2. 恵那西工業団地への進出企業が決まる

3月20日に電気機械器具製造業のヘレウス・エレクトロナイト株式会社と、4月28日に鉄鋼業のヤマシンスチール株式会社と立地協定を締結した。

市が初めて独自に行った工業団地開発である恵那西工業団地で、3区画のうち2区画の進出企業が決定した。



3. 恵那南地区の中学校統合に向けて動き始める

5月31日、恵那南地区の5つの中学校の統合に向けて話し合う恵那南地区統合中学校準備委員会が設立された。準備委員会には、理事会、幹事会の他、各部会が設置され、増改築計画や、通学方法、交流事業などについて検討が始まった。

9月には「教育環境の充実」と「地域との連携・協働」を統合の大きな目的とする基本構想を策定した。



4. 中央公園がリニューアルオープン

6月2日、本市で最も古い都市公園である中央公園（大井町）がリニューアルオープンし、子育て世代を中心に多世代が交流できる公園として生まれ変わった。大型遊具の他、屋根のある休憩施設、多目的トイレ、駐車場、防犯カメラ、災害時に炊き出しに活用できるかまどベンチなども設置された。



5. アフターコロナの観光が動き始める

6月12日、県のNEXT GIFU HERITAGEに「恵那岩村の山城・城下町と農村風景めぐり」が認定された。

恵那峡では、4月18日に旧かんぼの宿恵那が、恵那峡温泉ホテルゆずり葉としてグランドオープン。7月21日には大井ダム完成100周年記念実行委員会が設立された。11月4日にはプレイベントも開催されるなど、アフターコロナの観光が動き始めた。



6. 未来に向けた基盤整備が進む

6月21日、リニア中央新幹線日吉トンネルの武並側の工事が開始された。昨年からの工事が始まっている長島トンネルは、掘削延長が1キロメートルを超えた。

リニアまちづくり基盤整備の一つである中央自動車道の恵那峡SAスマートインターチェンジ（仮称）は、9月8日、国の「準備段階調査」の着手箇所となり、10月19日には第1回準備会が開催された。



7. 恵那の食を盛り上げるイベント

初夏の朴葉ずしに加え、秋にも食のイベントで盛り上がった。9月23日、24日のみのじのみのり祭では市内外の五平餅店が連なる五平ロードの他、自分で五平餅を焼いて食べる「五平フェス」が初めて開催された。10月21日のえな栗フェスでは、栗を使った多種多様な商品が販売され、同時開催のイベントも含め約13,000人の人出があった。



8. 自治体が運営主体となった世界ラリー選手権

11月16日から19日にかけて、本年も愛知県と岐阜県を舞台にWRC世界ラリー選手権が開催された。豊田市と恵那市などが実行委員会を組織し、自治体が運営主体として初めて開催された。

市内には昨年より多い7つの観戦エリアを設け、3つのリエゾンと合わせて約31,400人の来場があった。古い町並みを走るラリーカーの写真や映像が、世界中に配信された。



9. 発酵のまちづくりへの機運を高めた 全国発酵食品サミット

11月25日、26日、第13回全国発酵食品サミット in えなが開催され、2日間で18,000人が発酵食品の魅力に触れた。発酵に携わる市内事業者や発酵食品ソムリエ、恵那農業高等学校などによるワークショップ、全国から集まった発酵マルシェや発酵屋台などが賑わい、トークイベントでは恵那の発酵文化の奥深さを学んだ。



10. 世界情勢や物価高騰に対する取り組み

原油価格や物価高騰への支援のため、昨年よりもプレミアム率を増加させた市プレミアム付商品券の発行、18歳までの子どもがいる家庭への子育て支援商品券の配布、高齢者福祉施設や医療機関、地域交通事業者などへの支援、園小中学校などの給食費の支援などを行った。

